

平成 22 年度熊本県排出油等防除協議会合同訓練

11月12日、八代港大島石油基地で、海保、警察、消防、自治体、石油関連企業、漁協などの協議会会員14機関、約120名（船艇9隻、航空機2機、車両13台）が参加して大規模な油流出事故対策訓練を実施しました。

これは、油の流出事故などが発生した際の対処能力の向上、連携強化などを目的として行ったもので、「状況調査」、「人命救助」、「油防除」、「火災消火」の4つのフェーズに分けて実働訓練を行い、各機関が、可燃性ガス濃度の測定や油処理剤の散布、火災船の放水消火、負傷者の搬送などを行いました。

また、訓練には、海上保安庁鹿児島航空基地のヘリコプター「まなづる」と第十管区海上保安本部機動情報通信隊も参加し、上空や付近の防波堤から撮影した映像のヘリテレ伝送を実施。総合調整本部に設置したモニタに映像が映され、リアルタイムで情報共有が図られました。

なお、訓練に先立ち、海上保安庁横浜機動防除基地の防除措置官による、油防除の基礎、実働訓練時のポイントなどについての、実践的な講習も行いました。



